

Ⅱ 「ふるさと日野町」の自然

1 たき 滝山公園周辺の自然

(1) 地形・地質

【竜王滝】

滝山公園の駐車場から約 400m東には滝山神社があり、その裏山には標高 450mにかかる落差 35mの竜王滝があります。滝つぼの下の小さい滝も合わせると、50mにも達します。この竜王滝はすべて花崗岩でできています。

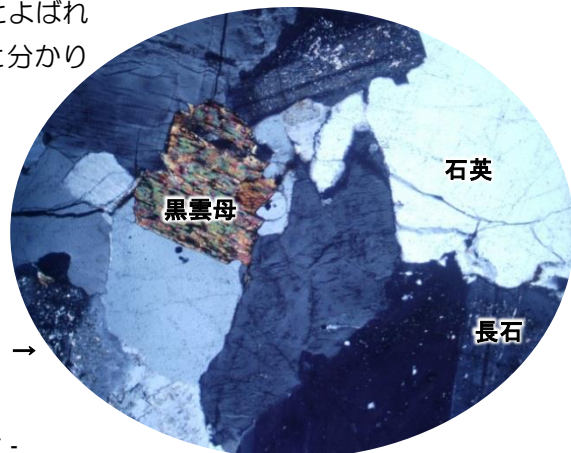
この竜王滝は、小泉八雲の小説に「幽霊滝」として登場します。

【基盤となる花崗岩】

滝山公園を含む日野町の西側の基盤となっている岩石は、中生代末期（約 6500 万年前頃）のものと考えられています。この花崗岩は、江府町、日野町、伯耆町、南部町の一帯にも広く分布しています。

【花崗岩とは】

火山の地下には、高温のために岩石がどろどろに溶けた物質があります。これをマグマといいます。このマグマが冷やされて固まった岩石を火成岩といいます。この火成岩のうち、マグマが地下の深いところでゆっくりと冷やされて固まった岩石を深成岩といいます。花崗岩は深成岩の仲間です。また、花崗岩は、肉眼でも見分けることができるくらいの大さの鉱物（マグマからできた結晶の粒）が組み合わさってできているのが観察できます。顕微鏡で見ると、石英、長石、黒雲母とよばれる鉱物が組み合わさっている様子がはっきりと分かります。



花崗岩の主な鉱物（偏光顕微鏡写真）→

(2) 植物

① 主な樹木

滝山公園の入り口付近から見られるのはミツバツツジ、リョウブ、ナナカマド、お勝ヶ池近くのモミジなどです。近くの^{あすまや}を登っていくとハウノキ、ヤブツバキ、イヌブナなどが見られるようになります。また、滝山神社への参道にはスギの巨木^{きよ}が生育しており、神社近くの枝先を、6月頃になると、鳥取県の^{げつめつきく}絶滅危惧種に指定されているラン科のセッコクが^{いろど}彩りをそえてくれます。



スイカズラ科 タニウツギ (5～7月)
枝先や葉のわきにピンク色の花をたくさんつける。花びらはろうと形で5つにさける。



ツツジ科 コバノミツバツツジ (3月下旬～4月)
枝先に3枚の葉がつく。枝先に^{こうし}紅紫色の花を1～2個つける。



モクレン科 ハウノキ (5～6月)
葉は大きく長さ20～40 cm。花は日本最大で15 cmほどになる。開花期は、周囲によい香りが漂う。



リョウブ科 リョウブ (7～9月)
樹皮は茶褐色^{かつしよく}でなめらか。薄片^{はくへん}となつてはがれる。葉は枝先に集まる。真夏に小さな白い花が^{すい}円錐状に穂^ほになって咲く。



ツバキ科 ヤブツバキ (2～4月)
厚く、つやつやした葉と枝先に咲く赤いしっかりとした花^{ちよう}が特徴。秋に直径4～5 cmの球形の果実をつける。



バラ科 ナナカマド (6～7月)
6月頃^{ころ}に白色の小さな花が枝先に半球状につく。秋には球形の赤く鮮やかな実^{あざ}がつく。

② 主な野生植物

滝山公園の入り口から竜王滝に向かって進む山道の両脇には、春にはムラサキケマン、タチツボスミレ、ヒメオドリコソウ、トキワイカリソウ、キランソウなど、秋にはキンミズヒキ、ミズヒキ、ヒヨドリバナなど、そして滝山公園の溪流沿いには、早春にかわいらしい白い花をつけるミヤマカタバミが見られます。また、駐車場上にあるハッチョウトンボの生息する湿地にはヒメガマ、ヨシ、スゲといった水辺の植物が繁殖しています。この湿地には食虫植物のモウセンゴケも生育しており、時折このコケに捕らえられたハッチョウトンボやイトトンボの仲間を目にすることもあります。



ケシ科 ムラサキケマン (4～6月)

高さ20～50 cmの2年草。紅紫色の花が茎の上部にびっしりと総状につく。



メギ科 トキワイカリソウ (4～6月)

和名は花の形を船の碇に見立てたもの。紅紫色から白色の花を咲かせる。



シソ科 ヒメオドリコソウ (4～5月)

ヨーロッパ原産の2年草。茎は四角形で高さ10～25 cmになる。



カタバミ科 ミヤマカタバミ (3～4月)

山地の林等に生える多年草。葉は3枚で中央がへこむ。花は白色で直径3～4 cm。



スミレ科 タチツボスミレ (3～5月)

もっとも普通のスミレのひとつ。人家付近から山地までいたる所に見られる。



シソ科 キランソウ (3～5月)

全体に地面にはりつくように広がる。花は葉の輪のようにつく。

しづげん
【湿原の植物】



カヤツリグサ科 ゴウソ (4～6月)
高さ 40～70 cmの多年草。小穂は2～4個つき、長い柄があって垂れ下がる。



モウセンゴケ科 モウセンゴケ (6～8月)
葉に消化腺のある食虫植物である。日あたりの良い湿地に生える多年草。



ガマ科 ヒメガマ (6～8月)
上部の雄花の穂と下部の雌花の穂の間が離れて軸が出ている。葉はガマよりやや細い。茎は高さ 1.5～2 mになる。



オモダカ科 ヘラオモダカ (6～10月)
葉がへらのような形をしているのでこの名前がついた。浅い水中に生える。



ハナヤスリ科 ハマハナヤスリ
日あたりのよい砂質地に生える小型のシダ植物。高さは 10 cm内外。現在日野町、米子市、鳥取砂丘でだけ確認されている。
鳥取県：絶滅危惧Ⅰ類



キンボウゲ科 ケキツネノボタン (3～7月)
田のあぜや湿地に生える高さ 40～60 cmの多年草。花は黄色で5花弁をつけ、葉は3出複葉である。

ふどうがたけ
【不動ヶ嶽の植物】

滝山公園の入り口の手前 500mほどのところに、毛利氏と尼子氏の古戦場で知られる不動ヶ嶽の登山口があります。標高 500mほどの中腹には花崗岩の中に作られていた社があり、そこからは黒坂地区一帯が見下ろせる大パノマラが広がり、春にはオオイワカガミの群落、各種のスミレを見ることができます。

不動ヶ嶽から見た黒坂地区の全景



不動ヶ嶽頂上付近の巨岩



イワウメ科 オオイワカガミ (4~7月)

山地の岩場や高山に生える常緑の多年草。葉の表面には光沢がある。イワカガミより葉が大きく 8~12cm。



スミレ科 シハイスミレ (4~5月)

葉は光沢がある。葉の裏面が紫色を帯びているので紫背すみれの名がある。



キク科 アキノキリンソウ (8~11月)

日あたりの良い山地に生える多年草。枝先に房状に黄色い花がつく。



【木本】アケビ科 アケビ (4~5月)

紫色の花が葉の間から垂れ下がり先端に雄花が、基部側に雌花がつく。9~10月ごろに紫色の果実がつき、熟すと開く。

③ 滝山公園のセッコク

岩の上や木の上に着生する多年草のラン科の花です。草丈は5～25cm、根茎は短く、たくさんの根を持っています。葉は細長く、長さは4～7cm程度で、光沢があり肉厚です。葉が落ちた茎の間から花の茎を伸ばして、先の方に白色から淡い紅色の花を6月上旬に咲かせます。滝山公園でも山道両脇の杉の高い枝先に白色の花を咲かせます。花には芳香があります。県内では三朝地区、日野郡内の各地に生育していますが、鳥取県の絶滅危惧種に指定されています。乱獲されたために非常に数が少なくなっていることから、鳥取県の条例で特定希少動植物（採ってはいけない動植物の仲間）に指定されており、保護していく必要がある貴重な植物です。

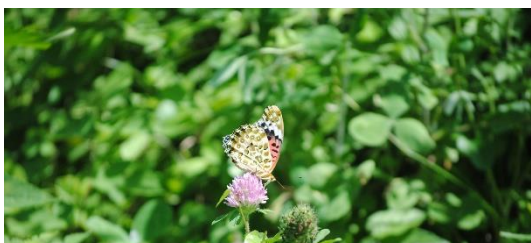


ラン科 セッコク 鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類に指定（滝山公園）

(3) 動物

滝山公園周辺には、数多くの動物が生息しています。大きなものは、イノシシやタヌキ、野鳥ではコゲラなどのキツツキの仲間、アカショウビンなど、時には竜王滝の水辺あたりでヤマカガシなどの爬虫類を見かけることがあります。また溪流には国の特別天然記念物のオオサンショウウオが生息し、サワガニやカゲロウの幼虫等の水生昆虫、ヤマアカガエルなどを捕食しながら暮らしています。爬虫類のシマヘビ、ヤマカガシ、カナヘビ、ニホントカゲなども時折目にしますが、やはり一番目することの多いのはチョウ、トンボ、バッタなどの昆虫の仲間でしょう。ここでは主にニホンカワトンボ、オオシオカラトンボ、クロスジギンヤンマ、ハッチョウトンボなどのトンボの仲間、キアゲハ、コムスジ、キタキチョウ、オオチャバネセセリといったチョウの仲間を紹介したいと思います。どの季節に、また滝山のどの周りで見られるのかも、注意してみてください。

① チョウの仲間



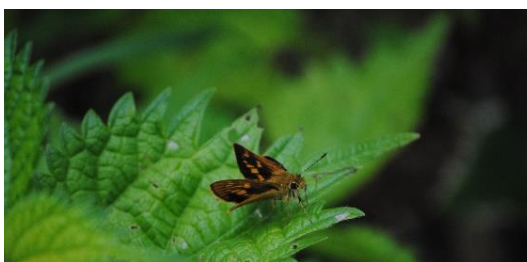
タテハチョウ科 アカタテハ (5~11月)
全長 30~35mm アザミ類やキク類等で吸蜜をする。主に成虫で越冬する。



シジミチョウ科 トラフシジミ (年2回: 4月下旬~5月・7~8月)
全長 16~21mm 春型は裏面が白と褐色、夏型は褐色の濃淡のシマシマ模様。



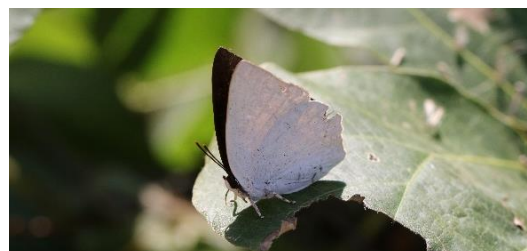
タテハチョウ科 コムスジ (4~10月)
全長 22~30cm はばたきと滑空を繰り返し、ワルツを踊るように飛んでいく。黒地に白い筋が3条ある。



セセリチョウの仲間
全長 16~21mm よく開けた笹原や草原で出会うことの多い、茶色のチョウ。



タテハチョウ科 イシガケチョウ
全長 26~36mm 南ほど発生回数が多い。細かく羽ばたいて滑空する姿は、風に舞う木の葉のよう。日野町では2017年に初めて確認された。



シジミチョウ科 ウラギンシジミ (5~10月)
全長 19~27mm 翅を閉じると銀色の三角形。オスは翅を開くと赤色斑が目立つ。

② トンボの仲間



トンボ科 ハッチョウトンボ オス(湿地)
(5~10月) 全長 16~21mm 日本産のトンボ類では最小。オスは成熟すると全身が真っ赤になり、翅の付け根はオレンジ色になる。

鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類



トンボ科 ハラビロトンボ オス(湿地)
(4~9月) 全長 32~39mm 腹部が幅広く、扁平なトンボ。メスはやや褐色がかかった色をしている。



イトトンボ科 キイトンボ(湿地)
(5~10月) 全長 37~44mm ちょっと太めの黄色いイトトンボ。メスはやや緑がかかった黄色の体をしている。



トンボ科 オオシオカラトンボ
オス(上)・メス(下)(5~10月)

全長 52~61mm オスは体が白粉で覆われるが、シオカラトンボより太めで、青みが強い。



カワトンボ科 ニホンカワトンボ(4~7月)

全長 49~61mm 翅の色は、オスでは橙赤色、淡いオレンジ色、無色の3タイプがいる。



トンボ科 リスアカネ(湿地)(4~9月)

全長 31~46mm 翅の先端に褐色斑がある。メスは腹部が淡褐色の個体がおおい。

【その他見られるチョウの仲間】

ベニシジミ・キアゲハ・テングチョウ・クロアゲハ・カラスアゲハ・ツマグロヒョウモン・ヤマトシジミ・キタキチョウ・スジグロシロチョウ 等

【その他見られるトンボの仲間】

カトリヤンマ・アキアカネ・クロイトトンボ・クロスジギンヤンマ・オニヤンマ・アジアイトトンボ・ミヤマカワトンボ・ハグロトンボ・ムカシヤンマ 等

③ 水生生物

滝山公園には、溪流、ハッチョウトンボの生息する湿地、お勝ヶ池といった水環境のある川、湿地、池の中にたくさんの生物が生息しています。溪流には日本最大の両生類のオオサンショウウオやそのエサともなるサワガニ、カゲロウ、カワゲラ、トンボのヤゴなどの水生昆虫などが生息しています。また湿地には、ハッチョウトンボのヤゴ、イトトンボのヤゴ、マツモムシ、オオコオイムシ、ヒメゲンゴロウなどの水生昆虫や両生類のモリアオガエル、シュレーゲルアオガエルなども見ることができます。さらに東屋近くにあるお勝ヶ池には、春には2mの長さにもなる卵塊を産むニホンヒキガエルや池に張り出した樹上に卵塊を生むモリアオガエル、そしてたくさんの群れで泳ぐメダカを見ることができます。ここでは、主にお勝ヶ池とハッチョウトンボの生息する湿地を中心にその生態や種について紹介をしたいと思います。



滝山公園 お勝ヶ池



←ヒキガエル科 ニホンヒキガエル
体長：オス 80~163cm/メス 84~176cm

頭部は長さが幅より長く、四肢はがっしりとして短い。体全体に大小のイボ状突起がある。2月頃に6000~14000個の卵を産む。全長にして20mを超えることもある長細い紐状の卵塊で産む。

鳥取県：その他の重要種



←メダカ科 メダカ 全長4cm

口は上向きで下あごがやや突き出る。背びれは体の後方にある。環境省・鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類

ヤンマ科 クロスジギンヤンマのヤゴ →
体長 50mm 前後 複眼が後方へ張り出す。幼虫で冬を越す。



滝山公園の湿地



←アオガエル科 モリアオガエル
オス4~6cm, メス6~8cm 体色は緑色で、虹彩は赤色。泡に包まれた卵を木の上に産む。日本固有種。

イモリ科 アカハライモリ →
オス7~11.5cm, メス8~14cm。背面は黒色、腹面は赤色。さわられると皮膚から毒液を出す。

環境省：準絶滅危惧





← **ゲンゴロウ科 クロゲンゴロウ**
体長 22mm 真っ黒で光沢のあるゲンゴロウ。
鳥取県：絶滅危惧Ⅱ類



ガムシ科 ガムシ →
体長 33~40mm ゲンゴロウに似た黒くて大きな甲虫。水草や藻を食べる。



← **ゲンゴロウ科 ヒメゲンゴロウ**
体長 12mm 前翅が黄褐色で、腹部は黒色の小さなゲンゴロウ。黒い小点が密にある。



カメムシ科 オオコオイムシ →
 メスがオスの背中に卵を産み付け、オスが世話を
 する昆虫。孵化する約1か月間世話を
 する昆虫。孵化する約1か月間世話を
 する昆虫。

④ モリアオガエルとシュレーゲルアオガエル

モリアオガエルは、体長はオスで42~60mm、メスで59~82mmで、かなりメスの方が大きいアオガエルです。体色は黄緑色から緑色ですが、地域によっては差が大きく、緑色の地に黒や暗い褐色の模様を持つものがあります。日野町や江府町などで見られるものは、全身が緑色のものがほとんどです。4月から7月に池、沼、田んぼなどの水面に張り出した樹の枝や場所によっては水辺の草などに、黄白色の泡状の卵を産みます。孵化したオタマジャクシは、そこから水面へ落ちて成長します。

モリアオガエルによく似たカエルにシュレーゲルアオガエルがいます。体長はオスで30~43mm、メスで40~55mmとモリアオガエルよりは小さいのですが、とてもよく似ています。見分け方のポイントは瞳孔（ひとみ）を囲んでいる虹彩が黄色（金色）なのがシュレーゲルアオガエル、オレンジ（赤色）なのがモリアオガエルです。卵塊もよく似ていますが、樹上に産むのはモリアオガエルだけです。

モリアオガエル：アオガエル科 アオガエル属



成体



樹上の枝に産み付けられた卵塊

シュレーゲルアオガエル：アオガエル科 アオガエル属



成体



草地に産み付けられた卵塊

(4) 滝山公園湿地の微生物

滝山公園の湿地などのように、水田、池、川などの水生の環境には、緑色の美しい緑藻の仲間、黄色が特徴的で形が美しい珪藻の仲間などの微小な植物や、ミジンコなど動きまわられる微小な動物が生息しています。これらの水の中の生物の種類が豊富であることは、この微生物をエサとしている水生昆虫などがたくさん生息できることにもつながっています。ここでは、特にめずらしい緑藻の仲間を中心に紹介をしていきます。



湿地の微生物をスポイトを使用して簡単に採取することができます。



アワセオオギの仲間

長さ:0.255mm

幅:0.192mm

細胞は大型で1個の細胞で生活をしている。

上下対称で平たくなっている。細胞の中央がくびれ2個の半細胞に分かれている。

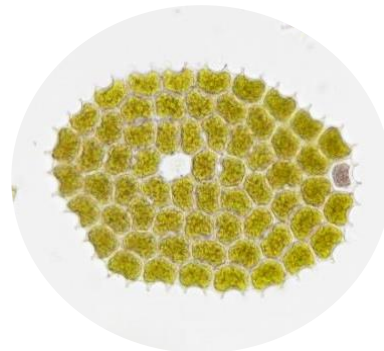


ミカツキモの仲間

(クロステリウム ジアナエ)

長さ:0.185mm 幅:0.017mm

細胞は細長く三日月形または弓形に湾曲してその形から「ミカツキモ」と呼ばれている。



クンショウモの仲間

長さ:0.244mm 幅:0.177mm

決まった数の細胞が、一平面上に放射状に並び、群体をつくっている。全体の形は円形で勲章のような形をしていることから「クンショウモ」と呼ばれている。



ツツミモの仲間

長さ:0.072mm 幅:0.051mm

細胞は中央で深くくびれて、上下2つの半細胞に区切られている。鼓のように見えるので「ツツミモ」と呼ばれる。



コウガイチリモの仲間

長さ:0.555mm 幅:0.037mm

細胞は大型で曲がることなく円柱形をしている。細胞の長さは幅の数倍もある。中央はわずかにくびれている。